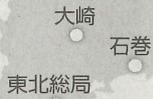


# 仙台圏



東北総局 〒980-0021  
 仙台市青葉区中央2-3-6  
 読売仙台ビル内  
 電話022-222-4121 F a x 222-8386  
 メール tohoku@yomiuri.com

石巻支局 〒986-0821  
 石巻市住吉町2-6-23  
 アソシエ21 102号  
 電話 0225-96-9601 F a x 96-9602

大崎支局 〒989-6117  
 大崎市古川旭6-4-12  
 オフィス佐藤2-b  
 電話0229-22-1077 F a x 22-0049  
 気仙沼通信部 0226-22-6980  
 白石通信部 0224-25-2296  
 ホームページ  
 www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

岩沼	22-2532	名取	382-3068
船岡	54-2040	中央	223-2362
長町	248-1318	太白	245-1935
小田原	262-2305	東仙台	251-6025
桜ヶ丘	278-4475	泉東部	351-7727
塩釜	362-8001	多賀城	361-3833

【販売事務】 仙台022-262-5807  
 ホームページ  
<https://www.miyagi-yomiurikai.com/>

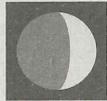
【広告】 仙台  
 読売エージェンシー東日本022-266-1562

【折込広告】 仙台022-387-3300

【読売旅行】 仙台022-222-5811

3月11日(月曜日)  
 旧 2月5日<赤口>

■ 月齢 4.5  
 (正午)



■ 仙台標準	■ 鮎川
日出 5.55	満潮 6.00
日入 17.39	干潮 18.34
月出 8.25	干潮 12.24
月入 21.56	

(中潮)

あすの暦

この日、団地内の集会所で行われた設立総会には住民約60人が参加し、町内会名を「閑上中央町内会」とすることを確認。避難訓練や夏祭り、通学路の見守り活動などを行う

参加者に当時の被災状況話す佐藤さん(右)(南三陸町で)



## 南三陸 町の復興、体験伝える

東日本大震災の津波で被災した南三陸町内を巡る町観光協会の語り部バスツアーに9日、20歳代の語り部2人が初登場。それぞれ20人以上の参加者を前に自身の被災体験や町の復興状況を語った。

このツアーは、変化し続ける町の様子を伝えようと昨年始まったもので、これまでは30歳代以上のベテラン語り部が担当してきたが、今回は、若者の視点も取り入れようと20歳代の2人が抜てきされた。

そのうちの1人は、20

16年に観光協会に就職した佐藤慶治さん(25)。震災当時は志津川高校の2年生で、自宅は津波で全壊。家族は無事だったが、同級生2人を失った。

東北福祉大在学中、県外出身の友人に震災のことを尋ねられ、「被災体験を伝えることが使命なのかもしれない」と思うようになり、学生を集めて南三陸町内の被災地を巡るツアーを企画した経歴を持つ。

この日は、高台にもかかわらず23歳の津波に襲われた旧戸倉中学校(戸倉公民館)や移転・再建された町役場などを巡った。ツアー中には、震災後、6日間両親と会えず不安だったことや、町が津波に流される夢

名取市閑上地区の災害公営住宅などが集まる「閑上中央第二団地」で9日、町内会が設立された。震災後、

## 閑上に震災後初の町内会

### 中央第二団地「住民連携深めたい」

閑上地区に町内会ができるのは初めて。

同団地への防災集団移転による住民の居住は2017年1月に始まり、現在は約190世帯、約400人が暮らしている。

この日、団地内の集会所で行われた設立総会には住民約60人が参加し、町内会名を「閑上中央町内会」とすることを確認。避難訓練や夏祭り、通学路の見守り活動などを行う

# バスツアーに20代語り部



①滑走路とその向こうの海を眺める我妻さん(仙台空港で) ②大津波で浸水した仙台空港(2011年3月11日、本社機から)

走路から震災後初めて飛行機が離陸した。まだガレキはターミナル1階の隅にあったが、なんとか往復6便だけ(おわり)

この連載は、道下航、渡辺洋介、宇田和幸が担当しました